

経済学(第9週) 第3章 貨幣と金融取引[1-2]

前回のキーワード:

資金過不足の発生

資金と資産

貨幣とは何か

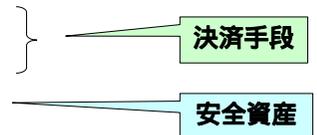
- ・ 価値基準財(ニユメレール)
- ・ 決済手段, 一般受領性
- ・ 流動性と収益性
- ・ 通貨の区分($M_1 < M_2 < M_3 < \text{広義流動性}$)

1

3-1-4・5・6 貨幣はなぜ需要されるか

貨幣…決済手段 / 安全資産

ケインズによる貨幣保有の3動機

- (a) 取引動機
 - (b) 予備的動機
 - (c) 投機的動機
- 

4

3-1-2・3 債券とは

資金の借り手が発行し、貸し手が保有する
借用証書

市場性を持つ**有価証券**で、満期を待たずに
第三者へ譲渡可能

通常は利付債(**クーポン**付き債券)

割引債のように利子が付かないものも存在

発行市場 / 流通市場 が存在

2

3-1-4・5・6 貨幣保有の便益と費用

貨幣保有の便益

… 決済手段 / 安全資産

貨幣保有の費用

… **直接費用**(取引費用, 在庫費用)
機会費用(危険資産の収益)

5

3-1-2・3 証券保有の利益

人々が証券を保有する理由

- ・ **インカム・ゲイン**が得られる
(配当やクーポン)
- ・ **キャピタル・ゲイン**が得られる
(損失[キャピタル・ロス]になる可能性も)

証券は収益を生むがリスク(危険)もある

3

3-1-4・5・6 利子率と債券価格

i ; 債券の収益率(利子率) d ; クーポン
 P^A ; 債券の現在価格 \tilde{P}^A ; 債券の将来価格

$$i = \frac{d + (\tilde{P}^A - P^A)}{P^A}$$

$$\longleftrightarrow P^A = \frac{d + \tilde{P}^A}{1 + i}$$

市場利子率 i と債券価格 P^A は反比例の関係

6

ケインズの流動性選好 (Liquidity Preference)

取引動機, 予備的動機にもとづく貨幣需要 (L_1)... 所得(産出量)と比例関係

投機的動機にもとづく貨幣需要 (L_2)

...債券の将来(予想)価格と反比例

仮定

1. 債券の価格は、市場参加者の評価する債券の価値と等しくなる(裁定利益ゼロ)
2. 予想債券価格は、現在の債券価格の変化と逆方向に変化する

3-2-1 ワルラスの法則(テキストp.34)

金融資産がn種類あるとき、n種類の資産市場ごとの超過需要(需要 - 供給)の和は恒等的にゼロとなる。これをワルラスの法則という。

資産が貨幣 (M^s / P) と債券 (B^s) の場合、ワルラスの法則が成立していると仮定して、どちらか一方の市場均衡の分析を省略できる。

$$\underbrace{\left(L - \frac{M^s}{P}\right)}_{\text{貨幣の超過需要}} + \underbrace{(B^D - B^s)}_{\text{債券の超過需要}} \equiv 0$$

貨幣の超過需要

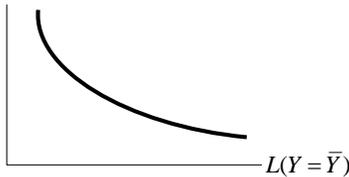
債券の超過需要

3-1-4・5・6 実質貨幣需要とY, iの関係

$$L = L_1(Y) + L_2(i)$$

$$L_1' > 0, L_2' < 0$$

i 所得一定の下での実質貨幣需要

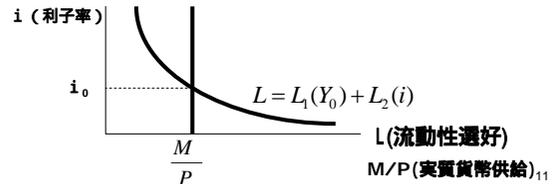


3-2-1 貨幣市場の均衡

名目貨幣量 (M) は中央銀行が操作可能な変数と仮定する(詳細な説明は来週)

貨幣市場の(実質需給の)均衡

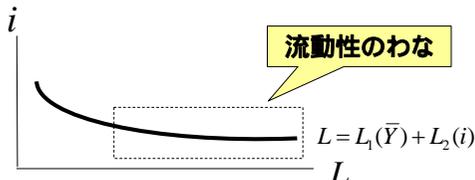
$$\frac{M}{P} = L_1(Y) + L_2(i)$$



流動性のわな (Liquidity Trap)

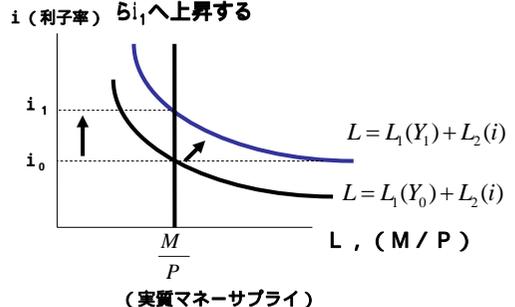
利率がきわめて低い水準になると、人々は(債券価格がもう上昇しないと予想して)追加的な資産の全てを貨幣で保有しようとする

貨幣需要の利率変化に対する反応の大きさ(弾力性)が無限大となる



3-2-1 貨幣市場における利率の決定

所得が Y_0 から Y_1 へ増加すると、貨幣市場で超過需要が発生 ($L > (M/P)$) し、均衡利率は i_0 から i_1 へ上昇する

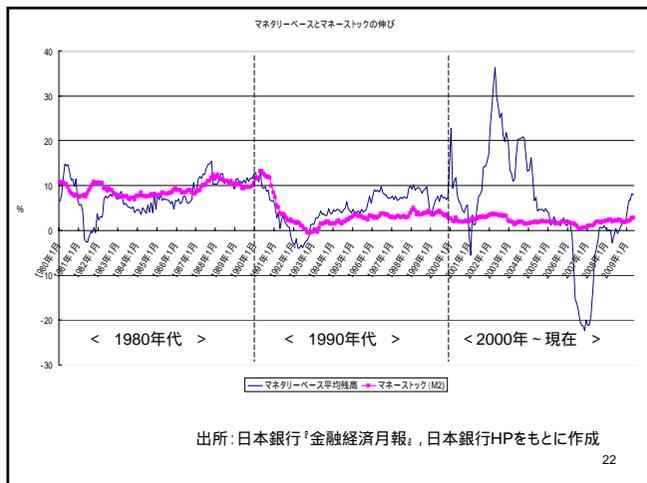


信用創造のメカニズム

中央銀行がH(C + R)を銀行Aに対して供給
 一部の準備を除き、銀行Aは貸し出す
 銀行Bの預金が増加
 一部の準備を除き、銀行Bは貸し出す
 銀行Cの預金が増加
 …以下、繰り返し

経済全体で見ると、当初のHに加えて、銀行の預金(将来の現金支払いが約束された通貨)Dが新たに創造され、乗数効果を生み出している。

19



ハイパワードマネー調節の手段

主要な政策手段 (p.38 ~ 39)

- <1> 貸出政策(公定歩合操作)
- <2> 公開市場操作
- <3> 預金準備率操作

現在、公定歩合は政策誘導目標としての役割をもたなくなっている。また預金準備率操作はそれほど頻繁に実施されない。

現在わが国では、日々の金融調節の手段として債券や手形の公開市場操作が実施されている。

20

小テストの実施について(確認)

来週実施(火-6:6/19, 木-2:6/21)

講義時間内の40分程度で実施

20点満点[期末試験の加点材料にします]

資料などの持込・閲覧は禁止

今週配布の解答用紙(1人1枚)の表面下半分および裏面には手書きメモを記入してよい(他人のメモのコピーは不可)

出題範囲は第1・2章, 形式は過去問参照

23

§ 5 通貨乗数

$$\text{支払準備率} = \frac{R}{D} = \beta \quad \text{現金・預金比率} = \frac{CU}{D} = \theta$$

とする。このとき、通貨乗数を α とすると

$$\begin{aligned} \alpha &= \frac{M}{H} = \frac{CU + D}{CU + R} = \frac{\frac{CU}{D} + \frac{D}{D}}{\frac{CU}{D} + \frac{R}{D}} \\ &= \frac{\beta + 1}{\beta + \theta} \quad (0 < \beta < 1, 0 < \theta < 1) \end{aligned}$$

と表すことができる。

21